

リース契約約款

- (リース契約)
- 第1条 申込者(契約成立後はリース賃借人。以下「甲」という。)は、東京ガスリース株式会社(以下「乙」という。)に対し、乙の個人情報取扱規程およびリース契約約款(以下「本約款」という。)をもとに、かつ本約款を契約内容として本約款に合意することとし、次の各号をすべて満たすことを条件に申込みます。(1)物件を設置する場所において、リース物件借受証(以下「物件借受証」という。)に記載の物件借受日に東京ガス株式会社(以下「売主」という。)と都市ガス使用契約を締結して物件を設置すること。(2)甲が現在居住し、かつ借家ではない家屋に物件を設置すること。(3)家庭用の用途として物件を使用すること。
- 2 乙は、表記のリース物件(以下「物件」という。)を売主から購入し、表記の取扱店(以下「取扱店」という。)が物件の取付を行ったりうえで、甲にリースし、甲はこれを借り受けます。
- 3 本契約は甲が第1項の申込みを行い、乙が甲の支払能力に関する信用調査等の手続きを行い、乙が甲の支払能力を取扱店に発信したときに成立します。ただし、甲が第1項各号の一つでも満たさないことが契約成立後に判明した場合、乙は本契約を取り消すことができます。
- 4 物件の所有権は乙が有します。乙は、乙が所有権を有する旨の標識を物件に貼付することができるものとします。甲は、物件を乙に返還するまでの間、または物件を乙より買取るまでの間、この状態を維持します。
- 5 本契約は、本契約に定める場合を除き解除することとはできません。ただし、甲は乙に対し残存リース料(消費税等を含む。以下同じ。)全額に0.7を乗じた金額(以下「解約精算金」という。)を一括して支払うことにより本契約を中途解約することができます。
- 6 甲は、乙に対し残存リース料全額と乙が本契約を締結するときに別途交付する書面に提示した金額を一括して支払うことにより、本契約の中途において、物件を買取ることができず、これにより本契約は終了し、物件の所有権は甲に移転します。
- 7 甲は、第8条に違反したとき、第5項または第6項いずれかのおりにするものとします。
- (物件の納入および引渡し)
- 第2条 甲は、物件が納入されたときから引渡しするときまで、善良な管理者の注意をもって、甲の負担で売主および取扱店のために物件を保管します。甲は、納入された物件について直ちに検査を行います。物件の品質、種類及び数量(規格、仕様、性能その他物件につき甲が必要とする一切の事項を含む。以下これを総称して「物件の品質等」という。)が本契約の内容に適合していることを確認したときは、物件借受証を乙に発行するものとします。乙が物件借受証を受け取ったとき、この借受日をもって乙から甲へ物件が引渡されたものとします。
- 2 甲は、前項の検査において、物件の品質等が本契約の内容に適合していない(以下、「物件の品質等の不適合」という)ときは、直ちに乙に通知するとともに、取扱店との間でこれを解決し、解決後に前項に従い、物件借受証を乙に発行します。
- 3 乙は、甲が不当に物件の引渡しを拒み、または遅らせたとき、催告を要しないので通知のみで本契約を解除することとができます。これに基づき本契約が解除された場合、甲は、取扱店

- から請求があったときはその請求の可否について取扱店との間で解決します。
- 4 天災地変その他の不可抗力、物件運送中の事故、労働争議、法令等の改廃、取扱店の都合その他乙に故意または重大な過失が認められない事由により、物件の引渡しが遅延し、または不能となつた場合は、乙は、一切の責任を負いません。(リース期間)
- 第3条 リース期間は、表記の期間とし、物件借受証に記載の物件借受日元起算日とします。
- 第4条 月額リース料およびその支払方法)
- 2 月額リース料にかかる消費税等は甲の負担とします。消費税等相当額は本契約の物件借受日の税率に基づき計算します。消費税等額が増額された場合には、甲は、その増額分を乙の請求に基づき乙に支払います。
- 3 甲は、税込み月額リース料を表記の支払日に表記の支払方法により乙に支払います。
- 第5条 物件の品質の不適合等)
- 第5条 物件の品質等の不適合があった場合および物件の選択または決定に際して甲に錯誤があった場合においても、乙は、一切の責任を負いません。
- 2 第2条第4項および前項の場合、甲は売主に対し直接請求を行い、売主との間で解決します。ただし、甲が乙に対し書面で請求し、乙が譲渡可能であると認めてこれを承諾するときは、乙は、乙の売主に対する請求権を甲に譲渡する手続きをとるものとします。
- 3 第1項の場合において、甲が乙に対して解約精算金その他本契約に基づきすべての債務を履行した場合、乙は、売主に対する買主の地位を甲に譲渡する手続きをとるものとします。ただし、前項および本項において、乙は売主の履行能力および請求権の譲渡に関する諸権利の存否を担保しません。
- 4 甲は、第2項に基づいて売主に対して権利を行使する場合において、リース料の支払いその他の支払いは、甲が本契約の弁済を免れるものとできません。
- (物件の滅失、損傷等)
- 第6条 物件の引渡しから返還までの間に、物件が滅失(修繕不能および盗難を含む。以下同じ。)もしくは損傷した場合、または物件を使用および収益することができない期間(物件の保守、点検、整備、修繕等に要する期間を含むがこれらに限られない)が生じた場合、甲は、その原因のいかんを問わず、リース料の支払いを拒むことができず、乙に対し、物件の修補、代替物の引渡し、リース料の減額、物件を使用および収益することができない期間の補償その他損害賠償の請求をすることはできません。また、この場合において、甲が本契約に基づく甲の目的を達成することができないときであつても、甲はこの契約を解除することはできないものとします。
- 2 前項において、物件が修繕不能となつたときは、甲は、解約精算金を遅滞なく乙に支払います。ただし、乙に第7条の保険事故に基づいて保険金が支払われたときは、甲は、その保険金を限度として解約精算金の支払いを免れます。
- 3 甲が前項の手続きを完了したときは、本契約は終了し、乙は現状有姿のまま物件の所有権を甲に移転します。

(物件の保険)

- 第7条 乙は、リース期間中(再リース期間を除く)、物件に動産総合保険を付保します。
- 2 甲は、物件にかかる保険事故が発生した場合に、直ちにその旨を乙に通知するとともに、その保険金受取りに関し必要な一切の書類を遅滞なく乙に提出します。ただし、甲が損傷した物件を甲の費用負担で修繕した場合は、乙は、保険金額を限度としてその修繕費用相当額を甲に支払います。
- (物件の使用)
- 第8条 甲は、乙から甲へ物件が引渡されたときからリース期間の満了まで、善良な管理者の注意をもって通常の用法に従って物件を使用および保管するものとし、乙の書面による事前の承諾を得ない限り、次の行為をしないものとします。(1)物件の改造、加工等、原状を変更すること (2)物件の第三者への譲渡、担保設定等、乙の所有権を侵害すること (3)物件を第三者へ転貸すること (4)物件の占有の移転、または表記設置先住所から移設すること (5)本契約に基づく甲の権利または地位を第三者に譲渡すること。
- 2 第三者が物件について権利を主張し、保全処分または強制執行等により乙の所有権を侵害する恐れがあるときは、甲は乙の契約書等を提示し、物件が乙の所有であることを主張かつ証明して、その侵害防止に努めるとともに、直ちにその事情を乙に通知します。
- (物件の修繕)
- 第9条 物件に不具合または故障が発生した場合は、甲は物件を常時正常に使用できる状態に修繕し、必要な費用を負担します。また、甲は乙に対し、これらの費用を請求することはできないものとします。
- 2 前項にかかわらず、甲が取扱店または取扱店の代行者に修繕を行なわせた場合で、次の各号のいずれにも該当しないときは、乙がその修繕費用を負担します。(1)甲が物件本来の用法によらないで使用したことにより発生した不具合または故障。(2)天災地変等の不可抗力により発生した不具合または故障。(3)甲の故意または過失に起因して発生した不具合または故障。(4)乙または乙の指定した者以外の者が点検または修理をしたことにより発生した不具合または故障。
- 3 乙が第7条の保険金を受領したときは、その保険金額を限度として甲は修繕費用の負担を免れるものとします。
- (物件の使用状況等の調査)
- 第10条 甲は、乙が物件の使用状況、保管状況などを調査することを求めたとき、または物件の使用状況などの報告を求めたときは、これに応ずるものとします。
- (通知事項)
- 第11条 甲または連帯保証人は、次の各号の一つにても該当するときは、遅滞なくその旨を書面により乙に通知します。(1)氏名もしくは名称または商号を変更したとき。(2)住所を変更したとき。(3)代表者を変更したとき。(4)次条第1項第3号の事実が発生し、またはそのおそれがあるとき。(5)物件の滅失、損傷または使用できない事態が発生したとき。(6)物件が設置されている土地もしくは建物の所有権が移転したとき、または移転のおそれがあるとき。(7)補助開始、保佐開始もしくは後見開始の審判があつたとき、または任意後見監督人が選任されたとき。(第12条以下、3. お客さま控の裏面に続く)

(第1条から第11条は、1. お客さま控裏面に記載)

(契約違反)

第12条 甲が、次の各号のいずれか一つにても該当したときは、甲は、甲は、

乙からの通知および催告を要しない、当然に本契約に基づき

期限の利益を失うことなく、残存リース料全額を直ちに乙に支

払います。(1)就込み月額リース料の支払いを二回以上怠った

とき。(2)本契約の条項の一つにても違反し、相当な期間をお

いて催告しても是正されないとき。(3)仮差押え、仮処分、強

制執行、競売の申立でもしくは諸税の滞納処分または保全差押

えを受け、または民事再生、破産、会社更生その他債務整理・

事業再生にかかわる申立があったとき。(4)信用状態が悪化し、

もしくはそのおそれがあるとき。(5)連帯保証人は、甲が相当と

認め、連帯保証人が第3号に該当した場合において、乙が相当と

認め、甲が乙に対して直ちに前項の支払いをしないときは、乙は、

催告を要しない通知のみで本契約を解除することができます。

第14条 前項の規定に基づき、乙が本契約を解除したときは、甲は、

第16条の規定に基づいて物件を乙に返還するとともに、損害賠

償として解約精算金を直ちに乙に支払います。

(連延損害金)

第13条 甲は、リース料その他本契約に基づく金銭の支払いを

怠ったときは、支払うべき金額に対して支払期日の翌日から完済

に至るまで法定利率の割合による連延損害金を乙に支払います。

(費用負担等)

第14条 本契約の締結に要する費用はすべて甲の負担とします。

債務の履行に要する費用はすべて甲の負担とします。

(契約の更新または終了)

第15条 甲は、リース期間の満了に際し、乙が別途提示する条

件において、次の各号のいずれかを選択することができます。

ただし、乙が甲の選択と異なる意思表示をした場合はこの限り

ではありません。(1)本契約を終了し、物件を取替え新たなリース

契約を締結(以下「取替え」という。)する。(2)本契約を第

5項の条件により1年間更新(以下「再リース」という。)す

る。(3)本契約を終了し、物件を乙から買取(以下「買取」

という。)(4)本契約を終了し、物件を第16条に基づき乙に返

還する(以下「返還」という。)

2 乙は、甲に対し、リース期間満了の3ヶ月前までに前項の

契約条件を書面により甲に提示します。

3 甲は、取替え、再リース、買取または返還のいずれかを

選択し、リース期間満了の1ヶ月前までに乙に対して書面での

旨を通知するものとします。

4 第3項の通知がない場合は、乙は、甲が再リースを選択し

たものとみなします。

5 再リースの条件は、次のとおりとします。(1)再リースの

期間は、本契約終了日の翌日から起算して1年間とします。(3)

(2)再リース料は、別途乙が書面に記載する金額とします。(3)

甲は、再リース料を別途乙が書面に記載する支払日に口座振替

で乙に支払うものとします。(4)再リース期間中に発生した不

具合または故障に要する修繕費用は、第9条第2項にかかわら

ず、すべて甲が負担するものとします。(5)再リース期間の満

了に際し、甲は、リース契約の更新、取替え、買取または

返還のいずれかを選択するものとします。ただし、乙が甲の

選択と異なる意思表示をした場合はこの限りではありません。

また、再リース契約の更新は1回を上限とします。(6)甲は、

やむを得ない事情により再リース契約を中途解約する場合は、

乙から支払い済み再リース料の一部返還を受けることはでき

ません。(7)前各号以外の条件は、本契約と同条件とします。

6 甲は、第1項各号に規定する取替え、再リースまたは返還

を選択した場合において、乙の定める期間までに手続きを履行

しない場合、乙は、甲が買取を選択したときの手続きを行う

ことができ、甲は、この手続きに対して異議を述べません。

(物件の返還)

第16条 甲は、本契約がリース期間もしくは再リース期間の満

了または解除により終了したときは、直ちに乙の指定する場所

に甲の責任と負担で返還するものとします。

2 甲は、物件の返還が遅れた場合で乙が請求するときは、返

還完了までの遅延日数に応じて月額リース料相当額を損害金と

して乙に支払うとともに、本契約の規定に従うものとします。

3 甲は、甲が物件の返還を遅延した場合に、乙または乙の指

定する者が物件を設置先住所から一切の費用は甲の負担としま

す。なお、物件の引き揚げに関する甲の責任と費用負担により直

接に行うとともに、すみやかに乙の指定の廃棄を証する書面を乙

に提出します。

(反社会的勢力の排除)

第17条 甲または連帯保証人は、この契約(再リース契約を合

む)の申込日において、自らおよびそれぞれの役員が、次の各

号のいずれにも該当しないことを表明し、かつ将来にわたって

も該当しないことを確約します。(1)暴力団(2)暴力団員および

暴力団員でなくなく時から5年を経過しない者(5)総力団

等(6)社会運動等標ぼうゴロ(7)特殊知能暴力集団等(8)その

他前各号に準ずる者および共生者

2 甲または連帯保証人は、自らまたはそれぞれの役員もしく

第三者を利用してこの各号に該当する行為を行わないことを

確約します。(1)暴力団の各号に該当する行為を超えたことを

当な要求行為(2)この取引に關して、脅迫的な言動をし、ま

たは暴力を用いて乙の信用を失墜させること、または乙の業務

を妨害する行為(3)乙の取引に關して、脅迫的な言動をし、ま

たは暴力を用いて乙の信用を失墜させること、または乙の業務

を妨害する行為(5)その他前各号に準ずる行為

3 甲、連帯保証人またはそれぞれの役員が、第1項各号のい

ずれかに該当し、もしくは前項各号のいずれかにか該当する行為

をし、または第1項の規定に基づき表明・確約に反する事実が

判明したときは、乙は、催告を要さないで通知のみで本契約を

解除でき、この場合、甲または連帯保証人は当然に期限の利益

を失い、解除に伴う措置は第12条第1項、第13条、第16条が適

用されるものとします。

(連帯保証人)

第18条 連帯保証人は、本契約に基づく甲の乙に対する次の各

号に掲げる支払債務を保証し、甲と連帯して債務履行の責任を

負います。(1)第4条第1項に規定するリース料および第4条

第2項の消費税等相当額(2)第12条第1項に規定するリース料

の全部(3)第13条に規定する連延損害金(4)第16条第2項に規定

する損害金(5)第16条第3項に規定する実際に要した引き揚げに

関する一切の費用。ただし10万円を上限とす。

2 乙が連帯保証人のいずれか一人に対して履行の請求をした

ときは、甲および他の連帯保証人に対しても、この履行の請求

の効力が生ずるものとします。

3 連帯保証人が法人でないときは、次の各号に掲げる規定が

適用されるものとします。(1)甲は、甲の財産および収支の状

況、甲が主たる債務の他に負担している債務の有無ならびにそ

の額および履行状況、および甲が主たる債務の担保として他に

提供し、または提供しようとするものがあるときは、その旨お

よびその内容に関する情報のすべてを、法人ではない連帯保証

人に提供済であることを、および提供した情報が真実、正確であ

り、かつ不足がないことを、乙に対して表明および保証しま

す。(2)法人ではない連帯保証人は、甲から前号の情報に基づ

て、甲は、乙が連帯保証人に対して、甲の乙に対する債務の履

行状況を開示することをあらかじめ承諾します。

(合意管轄)

第19条 甲および連帯保証人は、本契約に係る争いについては、

訴訟のいかんにかかわらず、甲もしくは連帯保証人の住所、地

または乙の本店を管轄する簡易裁判所もしくは地方裁判所を管轄

裁判所とすることに合意します。

(通知の効力)

第20条 乙が本契約に関し甲または連帯保証人の住所宛てに差

出した書面(第12条第2項の通知含む)であって、本契約書記

載の甲もしくは連帯保証人の住所または第11条により通知を受

けた甲もしくは連帯保証人の住所宛てに差出した書面は通常

到達すべきときに到着したものとみなします。甲および連帯保

証人はこの書面の不着または延着により生じた損害または不利益

を乙に対して主張することはできません。

(本約款の改定)

第21条 本約款は、法令の変更または監督官庁の指示その他、

必要が生じたときは民法第548条の4の規定に基づき改定され

ることがあります。改定を行う旨および改定後の内容ならびに

その効力発生時期については、効力発生時期が到来するまでに、

当社ホームページなどのインターネット、その他適切な方法に

より周知します。

2 乙は、事業環境の変化、事業の状況、経済状況の変化にお

びその他の事情により本契約の履行が困難と判断した場合は、

本約款に基づき、本契約の一部または全部を停止または終了す

ることができるとします。この場合、停止または終了する

内容ならびにその効力発生時期については、効力発生時期が到

来するまでに、当社ホームページなどのインターネット、その

他適切な方法により周知します。